

2005年7月11日

(説明資料)

ファミリーマート 第3世代店舗システムの構築

ファミリーマートはC V S大競争時代に勝ち抜くため、全店の店舗情報システム(POSレジ、ストアコントローラー、Famiポート、銀行ATM、その他店舗オペレーション機器)を統合刷新した、「光ファイバー・ネットワーク」の構築により、パン・パシフィック、更にはグローバル20,000店構想を強力にサポートする基盤作りを推進します。

すべてのファミリーマートのお客様に、なお一層の魅力を提供し、選ばれるお店作りを目指します。

ファミリーマートはこれまでも他社に先駆けた数々のe対応ビジネスの展開を行っています。

- マルチメディアキオスク「Famiポート」によるeコマース
- ファミマカードの展開
- 電子マネーへの対応(J R東日本との提携によるSuica利用等)

これらのサービスをより良いものにするため、当社は銀行ATMネットを統合した「光ファイバー・ネットワーク」を構築します。

コンビニエンスストア業界をリードするブレイクグループとの取り組み

コンビニエンスストアを取り巻く社会与件の変化、Suicaを始めとした電子マネーに代表されるIT技術の進化やお客様の個々のニーズに対応するための新たなインフラとして、「光ファイバー・ネットワーク」を使った第3世代店舗システムへの移行が必要不可欠であると当社は判断しております。

そしてこの移行を、これから6~7年間に亘ってコンビニエンスストア業界をリードする「基幹情報システムの刷新」と位置づけ、金融・ネットワーク・社会公共インフラ等に大きな影響力を持つ(株)NTTデータと、当社の基幹システムを高度に維持・管理してきた実績を持つ(株)CRCソリューションズを始めとするIT分野に強い伊藤忠グループのトータルバックアップ体制のもとで、2006年9月から第3世代店舗システムを導入し、3ヶ年で店舗・受発注(物流)・情報系の各システムを更新します。

ブロードバンドのフル活用

1. 発注データや売上情報をリアルタイムに収集・処理することで、お取引先への発注データ受け渡し時間を短縮します。これによりお取引先製造工場では計画生産をなお一層追求することが出来るようになり、製造・配送の精度を向上出来ます。
メーカー・ベンダー各社とセンター在庫及び店頭販売情報の共有などを進めているDCM(デマンドチェーンマネジメント)におきましても、新たに店頭在庫情報を提供出来るようになる事で、双方の協力体制を充実して参ります。又、店舗からの発注に関してもリードタイムの縮小による発注精度の向上を目指します。
2. 銀行ATM回線も統合し、運営コストの削減を行うことでATMの全店配置をスピードアップしていきます。
3. レジのお客様向け画面に15インチ大型ディスプレイを採用して、お客様に天気やニュースなど即時性のある有益な情報を提供するとともに、全ての店頭をメディア戦略拠点と位置づけ、効果的な広告宣伝と情報発信を行います。

「ホスピタリティあふれる接客」を支援する新POSレジスター

1. レジ操作に応じた動画やイラストのガイダンスをストアスタッフ画面に表示し、レジ接客時の戸惑いや手戻りを90%削減。更に高速レシート印字(2.5倍)と高解像度印刷(16段階)で早い・きれいなレジ対応で、ホスピタリティあふれる接客を実現します。同時にストア・スタッフの即戦力化スピードを高めます。
2. 非接触ICカード(電子マネー)、ファミマポイント支払い、各種クレジットカード、デビットカード、プリペイドカードなどお客様の多種多様な決済方法にお応えすると共に、スピーディな精算と接客を提供します。
3. 大型15インチのお客様向け画面では、お客様参加型キャンペーンの実施など、インタラクティブな対話型接客を目指します。
4. 多機能を搭載しながらも現行機以下の省スペース、そして省電力を実現し、機器のリサイクル化率も高めた環境にも優しい設計となっています。

「Famiポート」も刷新、ますます「簡単」「便利」で「楽しい」マルチメディアキオスクになります

1. ブロードバンドを活用した、EC（電子商取引）を超えるFC（光商取引）を実現、魅力あるコンテンツをスピーディに提供します。
2. 店内の複合コピー機と連動した、「On Demandプリント・ソリューション」を展開し、多様なお客様の印刷需要に応えます。
3. Suicaを始めとした電子マネーの支払・入金（バリューチャージ）機能を強化し、身近で便利なチャージスポットとして、ファミリーマートが一層活躍します。

安心、簡単、楽々の店舗システム

1. ブロードバンドを使った遠隔監視と予防保守を行い、安心して店舗運営に取り組める保守体制、警備体制づくりを行います。
2. お客様に満足頂ける売場づくりを支援するため、今までの店内システムを整備・統合し、店内業務を単純化すると共に、商品発注システムの機能アップによる精度の一層の向上を図ります
3. 店舗のペーパーレス化推進の観点から電子伝票・電子マニュアルを導入し、年間2,300万枚以上の紙の削減を図り、環境保全活動を更に推進します。
4. 店舗のストアコントローラーに担当スーパーバイザーからの連絡メッセージを迅速に、ダイレクトに表示。加盟店～SVの密なコミュニケーションを支援します。
5. 本部からの連絡メッセージは売場のハンディ端末でも閲覧できるようになり、情報伝達度を大幅に高めます。またこのハンディ端末は乾電池駆動を可能としており、停電など緊急時のハンディPOSレジとしても活躍します。
6. 新しく加盟する方にも安心・簡単・楽々な店舗システムで、当社の全国チェーン展開を加速します。

グローバル20,000店へ

海外から日本に来られる外国人の方が、予約済みのチケット受け取りなどのサービスをファミリーマートのどの店舗でも受けられるようになるなど、日本のファミリーマートが、グローバルに活躍できる仕掛けを用意して参ります。 又、海外におけるサービスのスタートを検討していきます。

総投資額は約310億円、高収益企業へのインフラ確立へ

新システムに要する投資額は概算として次の合計約310億円を見込んでおります。

ソフトウェア開発費 35億円

システム機器導入費 275億円

なお、上記投資の内、約8割はリース方式により調達し、約2割は取得となる予定です。

以上